

小島武堯頌徳碑

従五位子爵酒井忠一篆額

吾伊勢崎酒井侯封内（ほうだい）、上毛佐位郡稻田数千畝（畝）無所受水、民苦業久矣

宝永三年丙戌（1706）縣令小島武堯與、郡吏謨（謀）開通溝渠於同州群馬郡真壁村以東及勢多郡之地引利根川流以充封内田水之用各所設水柵

大小四十有八而至八坂村迫於神澤川於是架水道於川上而通之。爾來郡中獲田利為肥饒者形三千余石至今。郡之衆民相與謳謠其徳而不能忘。

侯家亦愛慕其功而、不衰遂、使臣等勒其事。于（う、ああ）石樹之以垂不朽

小島武堯の徳を讃える碑

従五位子爵酒井忠一が篆字の額を書いた

我が、伊勢崎酒井侯の領地上毛佐位郡の稻田数千畝は、水を受ける所が無く、農民は久しく業に苦しんだ。

宝永三年丙戌（1706）縣令小島武堯は、郡の役人と相談して、用水掘りを開通して、利根川の流水を、群馬郡真壁村以東と勢多郡の地域へ引いて、領内の水田の用に充当するため、各所に水柵（堤防・堰）を設置した。

その数、大小四十有八にして、ようやく八坂村まで迫ったが、神澤川に於いては、是の用水を上流から架水道（樋）により跨いで通水したのであり、以来、勢多郡内では、水利を獲得し、水田は肥えて豊になり、三千余石を形成し、今日に至り、郡の民衆は、お互いにその徳を讃えて歌い、その事績を忘れることができない。

侯家もまた、その功績を愛慕して、ついに、衰えなかった、よって家臣等にその事績を石に刻ませた。嗚呼、この石碑建立により、（小島武堯の徳を）未永く後世に残したい。

衰＝（家が）おとろえる。遂＝ついに、勒＝ロク、文章を石に刻む。于（う、ああ）。樹（植える、建てる）。垂（スイ、タレル）＝後世に残す。